

平成22年度第1回磐田市立図書館協議会会議録

日 時 平成22年7月15日(水) 午後1時30分から午後3時15分まで

場 所 磐田市立中央図書館2階会議室

出席者 委員：青島公悦(会長)、寺田美津子、伊藤節夫、川井士朗、鈴木嘉子、山岡裕子、
宮沢知子、大坪裕子、高梨俊弘、平野富美子(以上敬称略)

(事務局等)

飯田正人教育長、久野緑子指導主事

中央図書館：金原伸治館長、長島雄一郎主幹、太田雄介

福田図書館：大庭紀二館長 竜洋図書館：鈴木良夫館長

豊田図書館：高梨喜由館長 豊岡図書館：松本栄一館長

内 容 以下のとおり

1 開会(太田)

本日は大変お忙しいところ、委員の皆様方にはご出席いただき、誠にありがとうございます。ただ今から、平成22年度第1回磐田市立図書館協議会を開会いたします。

2 委嘱状の交付

まずはじめに各委員の皆様方の任期は、平成21年6月1日から平成23年5月31日までとなっておりますが、お手元の資料の委員名簿をご確認いただきますと、学校教育関係者の磐田市教育研究会、学校図書館部代表の方、1名がこのたび変わられましたので、本年度から新たに委員となられた方へ、教育長から委嘱状を交付いたします。

お名前をお呼びしますので、お手数ですが、その場にご起立ください。

なお、敬称は略させていただきます。

宮沢知子(みやざわ ともこ) 教育長から委嘱状を交付した。

◆自己紹介

新たな委員さんを迎え、また職員もこの4月に人事異動がありましたので、ここでお名前のみ、各自ご紹介をお願いいたします。

まず、委員の皆様方から名簿の順に青島会長からお願いいたします。

(青島会長から順番に自己紹介)

ありがとうございました。

それでは、教育長から紹介をいただき、続いて順に図書館職員が自己紹介いたします。

(教育長、中央図書館長、福田図書館長、竜洋図書館長、豊田図書館長、豊岡図書館長、中央図書館主幹兼図書係長、学校教育課指導主事、管理係太田の順に自己紹介)

3 会長あいさつ（青島）

毎月発行される「図書館だより」を拝見し、図書館がいかに頑張っているか大変よく理解できます。経済不況の状態は依然として続き、いただいた資料のデータを見ても、予算的に厳しい状況もうなづけます。図書館として正当な評価をいただくためには、地域住民にどれだけ満足してもらえるかが鍵となります。しかし、このような中でも当図書館の頑張っている姿を、市長はじめ市議会議員の皆さんにもぜひご理解いただきたいし、本協議会としてもさらに盛り上げていく必要があります。目標をできるだけ明確にし、現場主義に徹することがこれまで以上に図書館に求められていくものであると考えます。本日は、これらの状況も踏まえて、各議題を慎重にご審議いただくよう、よろしくお祈りいたします。

4 教育長あいさつ（飯田教育長）

青島会長はじめ、委員各位におかれましては、図書館の運営はもとより、教育行政全般にわたり、ご理解とご協力、ご支援をいただき感謝申し上げます。

さて、本年は「国民読書年」であります。読書は豊かな創造力と考える力を育み、心豊かな社会の実現につながるものです。そういった意味でも図書館は、生涯学習施設としての役割が益々大きくなってきております。

皆様も新聞等でご存知とは思いますが、去る4月23日の「子ども読書の日」に中央図書館が子ども読書活動の優秀実践図書館として、文部科学大臣賞を授与されました。これは、当館が長年継続してきました「茶の間ひととき読書活動」や「ブックスタート事業」、「子ども読書クラブ事業」、「おはなし会」、「学校との連携」等の活動が認められたことによるものです。早速、中央図書館長、児童担当者と私も同席し、市長へ報告しましたところ、市長からは、ねぎらい・励ましの言葉をいただきました。これらも機に、図書館の運営方針の一つである、「子どもたちに読書の楽しさを伝えます」をより一層推進してまいりたいと考えています。

本日の議題は、平成21年度事業報告や平成22年度主要事業、豊岡図書館の移転、中東遠地区広域図書館業務の提携等があります。委員の皆様には、是非忌憚のないご意見等を賜りたく、今後も更なるご指導をいただきますようお願いを申し上げ、ご挨拶いたします。

5 議事（青島議長）

ただ今から議事にはいります。本日の出席委員は委員定数の過半数を超えていますので、会議は成立しておりますのでご報告いたします。

(1) 21年度事業報告について

事務局から説明

（長島主幹）事業報告資料等に基づき概要説明

□開館状況：開館日数、入館者数

□各利用状況：登録者数、利用者数

- 貸出状況：館別資料貸出、資料別貸出
- 所蔵状況：館別受入、資料別所蔵
- 館内サービス：予約・リクエスト、レファレンス、コピーサービス、インターネットパソコン利用
 - ※レファレンスについては、21年度の途中に、取り扱う内容や範囲をあらためて精査し、5館統一したため、対前年数値の差が大きくなっている。
- 情報提供：図書館ホームページアクセス件数
- その他事業：ブックスタート、茶の間ひととき読書運動、障害者サービス等

◆質疑・意見等

- (高梨委員) 入館者数について、竜洋図書館で減少していますが、何か要因はありますか。
- (鈴木館長) 現在分析を進めていますが、当館はなぎの木会館と併設しており、昨年度ホール事業が減ったこともあり、全体の入館者数が減少したことが要因の一つになっているのではないかと思います。

(2) 現在の図書館情勢及び平成22年度施策別主要事業について
事務局から説明

(金原館長) 資料等に基づき概要説明

□現在の図書館情勢

- 昨年の出版物の話題としては、村上春樹著「1Q84」等の純文学作品が異例の売行きを示し、年末までに224万冊に達した。
本図書館の「1Q84」の予約件数は1巻：371件、2巻：328件であった。
- 2010年版の出版年鑑から
2009年出版界総売上額は2兆409億円、書籍新刊書は8万776点であった。
新刊1点あたりの単純平均定価は2,477円で、4年連続低下している。
- 昨年グーグルの「ブック検索」プロジェクトに端を発し、日本も作家や出版社を巻き込む騒動が話題となる。最近では、iPad、Kindleという電子書籍の端末機が話題となり、電子書籍への関心が高まっている。
昨年の電子書籍は約2万6,000点、2001年からの累計数は10万点を超えている状況で、本年は電子書籍元年ともいわれている。
- 今後の電子書籍の発売増により、図書館に色々な議論を起こすことが予想される。個々の図書館での対応は困難なため、今後の推移を見守っていきたい。
- 昨年1年間(2009年1月～12月：日本図書館協会調べ)に新築・新設された公共図書館は50館。2009年は、既存施設の利用としての新設が目立ち、合併前まで町村役場として使用していた建物の空きスペースを利用、設置された図書館も複数あった。(2008.4 3,106館)

- 本年2010年は国民読書年である。文字・活字文化振興法を基礎に、資料や情報を求める人々の期待に応え、権利を充足することが、現代の図書館の最も重要な責務である。
- 磐田市立図書館としては、厳しい財政状況の制約もあるが、委員各位のご意見を踏まえ、一步一步着実に読書環境を整備していきたいと考えている。

□基本方針及び運営方針

- 基本方針：「市民に役立ち、市民とともに歩む図書館をめざします」
- 運営方針：①「くらしとまちづくりに役立つ図書館をめざします」
 - ②「子どもたちに読書の楽しさを伝えます」
 - ③「資料・情報とそれを求める市民を結びます」
 - ④「図書館サービスを利用できる機会を広げます」

これらを踏まえ、ハード・ソフト両面のサービス向上を図るため、市立図書館の抱える課題を発見し、必要な業務改善を行っていく。

□平成22年度施策別主要事業について

○図書館施設管理事業

- *コンピューターシステム更新事業（別議題で説明）
- *屋根、外壁塗装工事（豊田）
- *豊岡図書館の移転（別議題で説明）

○親子読書推進事業

- *読み聞かせボランティア講座の開催
 - *ブックスタート事業及びブックスタートの会の開催
 - *2歳8ヶ月児相談での読み聞かせ及びおはなし会の開催 他
- 今後も引き続き、子どもの読書環境の整備と活動の支援を行っていく。

○茶の間ひととき読書運営事業

小学校3年生とその家庭を対象に、本に接する機会を拡大し、読書に興味を持つための啓発活動を推進する。

- *市内全小学校の3年生全クラスに図書館の本を配布
- *役員会等（PTA・教員）の開催（年6回）
- *講演会の開催（年1回）

○視聴覚ライブラリー・展示室・視聴覚ホール活用事業

- *16ミリ映写技術講習会の開催
- *視聴覚機材及び教材の市内団体への貸出
- *市、教育委員会、文化協会加盟団体等が主催する展示会、企画展の開催
- *展示室の一部を学習室として開放

※中央：7月24日（土）～8月29日（日）

- *映画会、おたのしみ会、本のリサイクル市、コンサート等の実施

- 天体観測室活用事業（豊田）
 - *天体観測会の開催
- 資料整備事業
 - *計画的かつ効率的な蔵書（図書・視聴覚資料）の整備充実を図る。
- 公開講座開設事業
 - *文学講座・子ども図書館クラブ・親子工作教室等の開催 他
- 図書館視覚障害者サービス事業
 - *音訳ボランティアによる録音図書作成、点訳ボランティアによる点訳図書作成
 - *ボランティアによる対面朗読の実施
 - *録音図書、点字雑誌・図書及び点字本・大活字本の購入
 - *点字プリンターの更新 ※図書助成基金の活用
- ◎レファレンス・サービス、課題解決型サービス、インターネットによる情報提供サービス、子どもの読書活動の推進を重点に図書館サービスの充実を図る。
- ◎図書館組織のノウハウの承継や新たなサービスの展開、施設の安全・維持管理等に適切に対応していく中で、より効率的な図書館運営に努めていく。

◆質疑・意見等

- (伊藤委員) 竜洋図書館の入館者数の減少については、なぜなのか疑問に思っています。竜洋公民館の入館者数の減少も関わりがあるかもしれないが、他の要因もぜひ検討してもらいたいと思います。そういう意味では、もう少し竜洋で実施している活動のPRをしたらどうかと思います。今も汚損破損本が展示されていますが、私自身大変驚き、とんでもない状況を目の当たりにしました。現在も「図書館だより」は発行されていますが、年1回でもいいので地域限定版の「たより」を発行したら、状況も変わってくるのではと考えます。
- (鈴木館長) ご意見ありがとうございます。参考とさせていただきます。
- (金原館長) 予約した地区館所蔵の本を中央図書館で受け取ることもできるため、利用者における5館の境界線がなくなってきているとも言えるかもしれません。
- (青島議長) 地域へのPRはぜひお願いしたいと思います。
- (鈴木館長) データを見ると、児童書（絵本等）の貸出数が約6,000冊減少しているのが目立っています。また、平成19年度から21年度までの3年間において、児童書の貸出数は約10,000冊減少しています。このことも踏まえながら、例えば幼稚園や保育園などへアプローチしていくことも研究していきたいと考えます。
- (宮沢委員) 現在3年生を受け持ち、茶の間ひととき読書活動を担当していますが、先日開催された講演会は大変良かったです。学校でもこの活動を通じ、親子読書が浸透していると感じています。新1年生を対象とした図書館利用者カードの作成・配布は、この機会に図書館へ行ってみようという流れができるため、

取り組みの効果が表れていると思います。また、団体貸出は大変ありがたく、学校としても大変助かっています。学校でも本を多く用意したいのですが、なかなか困難であり、限られた予算の中で購入しています。このような状況下で「調べ学習」を実施していく際、巡回されている学校司書の協力はもちろんですが、図書館司書の方の協力もぜひお願いしたいと思います。

(鈴木委員) 豊岡地区において現在実施されている「移動図書館」は、子どもたちも大変楽しみにしています。今回豊岡図書館移転のお話がありますが、子どもの中には、自分たちだけでは図書館に行けない所に住んでいる子もいるため、ぜひ移転後も継続してください。また、人形劇など中央図書館ではいろいろな催しが行われていますが、ぜひ地域の人にも見せてあげたいと思っています。地区館においても楽しく、みんなが触れ合えるような催しがあるとありがたいと思います。

(松本館長) 豊岡支所への移転後も「移動図書館」は継続して実施していく予定です。

(川井委員) 先ほど電子書籍やiPadの話題が出ましたが、これらが社会や図書館にどのような影響をもたらすのか、わからないことが多いと感じています。

(金原館長) 著作権の問題等もあり、出版業界でもその対応が定まっていらないように思います。今年に入って、さらにいろいろな動きが出ていますが、まだまだ不透明な点が多いため、現時点では推移を見ていくしかないと考えています。

(川井委員) インターネット小説などもありますし、大変幅広くなっています。

(寺田委員) 確かにiPadは気になりますし、出版業界も戦々恐々となっているように思います。図書館との関わりがどのようになるかは、もちろん気になることですが、書籍の電子化への対応等は本の選別や図書館のあり方を含める中で考えていくことが必要だと思います。将来を見据え、多くの子どもたちとその親を図書館へ呼び込んでいくような取り組みを、目先のことにとらわれずに実践していくことが大切だと思います。

別件ですが、図書館で行っている音訳ボランティア養成講座の募集について、知り合いに聞いたところ、全10回の講座で、なかなか難しいのではないかと言われました。どんな内容なのか教えてください。

(長島主幹) 本年9月からスタートする講座で、経年とともにボランティアの数も減少してくるため、4～5年に1度の割合で実施しています。講座は全部で10回ですが、1回休んでしまうと続かなくなりますので、できるだけ全部受講いただきたいと思います。内容としては、読み方が中心となりますが、あまりにきちんとした言葉でなければならない、というわけではありません。また、録音機器の操作練習もありますが、実際にやってみるとそんなに難しいものではないという声も多くいただいていますので、必要以上に気をつかうことはないと思います。

- (大坪委員) レファレンス件数に注目していますが、各館の件数も増加していて、大変うらやましく思っています。図書館の評価としては、「問題解決」がキーワードとなっており、それが利用者の満足につながっていきます。平成22年度の目標として、レファレンスサービスの充実を掲げているのは、大変良いことだと思います。また、当方の大学図書館では、「情報リテラシー教育」の充実を図るため、例えば新入学生のガイダンスの際に、正しい情報の見極め方やインターネット検索時のテクニックなどを教えています。対象が学生なので、まずは知識として浸透させることに主眼を置いています。
- (川井委員) 中学生もインターネットを使っているから、個人が正しい使い方を学べるシステムも必要だと思います。
- (寺田委員) インターネット等を通じ、本当に情報が氾濫しています。こうなると、今後家庭でも個室にパソコンを置かないようにするなどの対策が必要になってくるのではないかと思います。
- (大坪委員) 今後も情報に対する意識を高めていくことが不可欠であると思います。

(3) 豊岡図書館の移転について

事務局から説明

(松本館長) 資料に基づき概要説明

- 経緯：現施設の老朽化、耐震性の問題、手狭な駐車場等の課題を解決するため、豊岡支所内への移転を進めている。
- 新館概要(案)：支所西館内
- 業務サービス：カウンターサービス(貸出・返却等)
児童・YAサービス、読書案内、
読書案内、相談(レファレンス)サービス
移動図書館、団体等への協力・支援 等
- 今後の予定：9月市議会へ補正予算(案)・条例改正(案)を上程し、その後改修工事、図書資料の移転等を実施し、2月下旬頃新豊岡図書館の開館を予定している。

◆質疑・意見等

- (鈴木委員) 説明を聞いて内容がよくわかりました。さらに充実したものにしてください。

(4) 中東遠地区広域図書館業務提携について

事務局から説明

(長島主幹) 資料に基づき概要説明

磐田市、御前崎市、掛川市、菊川市、袋井市及び森町の6市町の公立図書館等の業務の一部について協力し、生涯学習の拠点として整備充実と利用者サービスの向上を図ることを目的とする。

- 提携範囲：図書館資料の館外貸出及び返却

- 利用方法：それぞれの図書館等の貸出規定に基づき、資料の貸出を受けることができるものとする。
- 業務提携により、自館利用者として登録する場合は、住所地の図書館利用者カードを持参した者に対してのみ、自館の利用者カードを発行する。
 - *現在は、中遠地区（磐田市・袋井市・森町）広域図書館業務を提携しているので、その範囲を御前崎市・掛川市・菊川市へ拡大していくこととなる。
 - しかしながら、地元の図書館をまず利用してもらうことを基本にしていく。

◆質疑・意見等

- (平野委員) 市内の高校に3年間通った学生の利用者カードは有効なのでしょうか。
- (長島主幹) 特に有効期限は設けていません。基本的に本の貸し借りのルールを守っていただくことが大前提と考えています。
- (山岡委員) 便利になるのはとても良いことだと思います。ただ、地元の図書館にある本は、地元で借りることがまずは基本との考えがありますが、このあたりを厳密に制限していくようにするのでしょうか。
- (長島主幹) 他自治体の図書館の本を借りることができる「相互貸借」という手段もありますので、地元図書館の利用について、あまりにこだわり過ぎないように考えていただければ良いと思います。
- (青島議長) 借りた本は、この範囲であればどの図書館でも返却できるのでしょうか。
- (長島主幹) 借りた本は、借りた図書館へ返却していただくことになります。
- (高梨委員) 広域連携の範囲を「中東遠」と決めた理由は他にもありますか。
- (金原館長) 4年程前に、中遠・東遠地区の連絡会があり、その中で中東遠の枠組み・相互交流の話題が出ていました。もちろん図書館以外の面でもいろいろな動きがあると思いますが、これまでの経緯も踏まえて進めていきたいと思っています。

(5) その他

- システム更新の状況（入れ替え時期及び休館等）、汚損破損本の掲出について事務局から説明

(太田) 資料に基づき概要説明

①システム更新の状況

- 現在の図書館コンピューターシステムは、5年間のリース契約満了後、1年間の再リース（9月末まで）契約を締結し稼働している。
 - ⇒機器本体の保守サービスの終了、不具合が生じる危険度の高まる前にシステム更新を図っていく。（10月から）
- 今後の予定
 - *ハードウェア等賃貸借契約・入札の実施
 - *各種データの移行作業、機器等の入れ替え等

○休館期間等

*9月20日(月)～10月4日(月)までの間、全5館を休館とし、
10月5日(火)から全館開館を予定している。

*休館期間については、市教育委員会の承認・告示を実施し、併せて必要な情報は市広報やホームページ等により市民等へ周知していく。

②汚損破損本の掲出について

○本年4月から、中央図書館・福田図書館・竜洋図書館で順次展示を行い、以降他館でも実施を予定している。

○これまでの期間中、親子や子どもたちも足を止めて、じっくり見てくれた方が多かった。

○実際の状況を見てもらうことで、本を大切にすることはもちろん、自分以外の物や人、公共物に対するいたわりの心など意識付けしやすいのではないかと感じている。

○今後もいろいろな形で仕掛けていく予定。委員さんからのご提案も随時いただきたい。

◆質疑・意見等

(高梨委員) システム更新に関連し、ICタグについては導入していくのでしょうか。

(太田) 経費面やその効果における実証等にまだまだ課題があるため、今回の更新にあたっては導入を見送りました。しかし、今後も引き続き情報収集・研究は継続していきます。

事務局からの連絡事項(太田)

10月18日(月)に静岡県図書館大会が静岡市で開催されます。是非多くの委員さんに参加いただきますようお願いいたします。開催内容等詳細について、主催者側から連絡があり次第ご案内いたします。また、第2回の図書館協議会につきましては、来年2月中の開催を予定していますので、その節にはよろしくようお願いいたします。

6 閉会 予定通り本日の次第を終了したので、散会した。

以上